

## 令和5年度第2回中央区環境行動計画推進委員会【議事概要】

日 時 令和6年1月23日(木) 14:00~15:20

場 所 中央区立環境情報センター研修室

### 議題

#### (事前配布資料)

令和5年度第1回中央区環境行動計画推進委員会【議事概要】

資料1-1 中央区環境行動計画2018の最終評価

資料1-2 進捗評価の経年変化(H30~R4 実績一覧)

資料2 中央区環境行動計画2023評価案

#### (当日配布資料)

- 1 中央区環境行動計画推進委員会委員名簿
- 2 中央区環境行動計画推進委員会座席表

(1)「中央区環境行動計画2018」(平成30(2018)年~令和4年(2022)年)最終評価について

#### ●区

(資料説明)

#### ●委員

資料の書き方によって理解しづらい箇所があるため、基本目標、個別指標の評価、施策の達成状況というように、内容に沿ってしっかり見出しをつけるべきである。

#### ●区

見出しの表記を工夫し、わかりやすくなるよう修正する。

#### ●委員

基本目標2について、新型コロナウイルス感染拡大がなければ、ごみ排出量は減少傾向だったのか。減少傾向だったと考えられるのであれば、新型コロナウイルス感染拡大がなかった場合に想定されたごみ排出量の推移についても言及したほうがよいのではないかと。また、基本目標5について、環境情報センター等の施設はアフターコロナになっても来館者数が新型コロナウイルス感染拡大以前に達しない傾向がある。来

館者数を新型コロナウイルス感染拡大以前に戻すことを是とした書き方をすると、後々苦しくなるのではないか。

●区

ごみ排出量は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きいと考えられるため再度精査し、記述を見直す。環境情報センター来館者数についても前向きな書き方になるよう検討する。

●委員

資料1-1 p.6 基本目標5のNo.5の指標が、施策17と関連付けて基本目標4の項目として掲載されているが、この場所に掲載すべきでなく、基本目標5に掲載すべきである。

●区

当初基本目標5に掲載していたが、指標の内容としては施策17との関連性が高かったため、現在の場所に掲載している。まちが綺麗になると安心・安全につながるということもあり、まちかどクリーンデーに関する指標は環境行動計画2023でも基本目標4に含めている。基本目標5にも再掲できるかを検討し、回答する。

●委員

施策17の文章にも書かれているため、基本目標4の「施策17の関連指標として記載」の部分を削除することでよいのではないか。

●委員

資料1-1 p.10の評価基準について、基準1、1-3は理解しやすいが、基準1-2は他の基準に比べるとハードルの高さが異なってみえる。口頭で説明いただいた内容を追記することで、理解がしやすくなるのではないか。

●区注釈を入れるなど、工夫したい。

●委員

資料1-1 p.1の表について、「根拠」の欄が根拠を表していない。評価と根拠をまとめて「評価基準」とすれば、その他の説明は資料1-1 p.10に記載している旨の追記でよいのではないか。表のみをみた場合、「年間5%増減」といった文言が瞬時に理解しづらいため、検討されたい。

資料1-1 p.1冒頭でこの5年間の取組について評価する旨が記載されているが、比較している平成29年度と令和4年度の間の変化がみえづらく、資料1-1 p.9「お

わりに」で評価するか、施策ごとのコメントに反映するなどの補足を検討されたい。

●委員

資料1-1 p.4 基本目標3について、新型コロナウイルス感染拡大下において、緑化ボランティアの参加人数だけが増加し、緑地があまり増えていない記述となっている。みどりについて、もう少しプラスの評価ができる部分があるのではないかと。

●区

緑化ボランティアの参加人数が増加した理由は、新型コロナウイルス感染拡大下での拠り所としてみどりや地域貢献に目が向いたと考えている。緑地が増加していない理由として、ボランティアが担う範囲が公園内の花の手入れ等に限定されるためである。緑地は区による街路樹の植樹等により増加するため、緑化ボランティア参加人数の増減と緑地の増減は直接関係していないと考えている。

●委員

資料1-1 p.3 基本目標2の個別指標 No.5、No.6に「集団回収量、集団回収登録団体数を増やす」とあるが、団体ごとの回収量は把握しているのか。

●区

団体が回収した量は把握しており、回収量のうち9割が紙類である。新聞回収量が平成29年度に比べ36.2%減少したが、段ボール等の回収量が増加したため、全体としては5%程度の減少となっている。新聞の回収量減少については、電子媒体への移行が理由と考えられるが、可燃ごみに混在している可能性も考えられるため、分別の啓発をしていきたい。団体数は増加傾向であり、今後晴海での人口増加も見込まれるので、団体数増加に向けて周知活動をしていきたい。

●委員

資料1-1 p.3 基本目標2の個別指標 No.2の評価が☆1つであることについて、中央区ではプラスチックごみは可燃ごみとなっているため、トレー等を可燃ごみとして捨てているという話をよく聞く。集積所のごみ出しの表記でも、プラスチックごみが可燃ごみと資源（プラマーク）の収集日両日ともに収集可能と記載されている。容器や資源の分別の仕方を住民向けにもう少し周知していただくことはできないか。

●区

プラマークが付いているものについては資源として回収しており、トレーなども資源に回せるものはそのようにしているが、製品プラスチックについては燃やすごみと

して収集をしている。国からも要望があり、令和13年度までに製品プラスチックも資源として回収できるよう取り組んでいきたい。本日から改定した「ごみと資源の分け方・出し方」を配布するが、そのなかでプラマークと燃やすごみとの分別について、周知している。

- 委員

今のご意見を参考に、今後の取組のなかでご検討いただければよいのではないかと。

- 委員

資源分別について、自宅マンションにおいても分別しているのはペットボトルのみで、他は可燃ごみとして出している。区がリサイクルをしていることは伝わっていないことも考えられるため、資源分別の取組に対する呼びかけの一環としてプラスチックのリサイクルの内容を追記してもよいのではないかと。

## (2)「中央区環境行動計画2023評価案」の確定について

- 委員

次に、事務局から資料2の説明をお願いします。

- 事務局（環境課長）

（資料説明）

- 委員

資料2 p.7以降を修正したのか。

- 区

個別指標の設定に関する意見については、環境行動計画2023策定時に反映済みであるということ为前提とし、主に p.7以降の修正を行った。

- 委員

評価方法は、進捗率で評価するということか。p.2の文章と p.7の表の対応関係を明確にしたほうがよい。p.2【見直し案】2）の内容は p.7⑥進捗率のことか。

- 区

そうである。p.7⑥で進捗率を見ることとしている。目標値は元々設定しており、それに対する増減量や実績値を踏まえた進捗率を表示している。

- 委員

p.7中で p.2の1）に相当する箇所はあるか。

●区

最終目標値である②となる。

●委員

最終評価したものを基本的には進捗率として表現していくことと認識した。

●委員

基本目標1の個別指標 No.6について、中央区は景観条例がないため、まちづくり基本条例に基づき今後高層建築物はあまり建てない方向で進むと認識していたが、現在も高層建築物が建設され続けている。地震の懸念もあるなか、今後も中央区として高層建築物を建て続けなければいけないのか。

●委員

委員のおっしゃる超高層の建築物は、市街地再開発事業として事業エリアの方々の合意に基づき組合を設立して行うものなので、区が高層建築物を建て続けるというわけではない。費用対効果・事業採算性を検証した結果として高層になっているが、高層にするだけでなく、空地や緑地など、地域の方が利用できるスペースも整備されている。老朽化した建築物の耐震補強や ZEB・ZEH 化を促進することは難しいが、中長期的な視点でみてまちの更新のなかで環境配慮を進めていかなければならない。区としては、開発を行う際にその時点で防災面や環境性能を高めるよう促し、推進している。

●委員

災害が頻発しているなか、狭い中央区内に老朽化したマンション、戸建て、新築高層マンションが混在していることが懸念される。みどりも少なく、人として癒される部分が少なくなってきたと感じる。もう少しゆとりあるまちづくりになるとよい。

●委員

p.8基本目標2の個別指標 No.4のように、令和4年度では実績値が1件のため進捗率が-90%となっている。次の年度で10件達成すると進捗率が100%になり、進捗率とは異なる意味になってしまう指標については、前回委員会から改善されていないのか。

●委員

p.7基本目標1の個別指標 No.9も同様である。進捗率の概念からは乖離している。

●区

前回委員会でいただいたご意見も踏まえ、「種類」の項目を追加することで対応している。ご指摘の箇所は「単年度」としている箇所と思われるが、「単年度」と記載し、かつ文章で補足することとしている。それ以外の箇所については、進捗率で管理する方法がわかりやすいかと考えている。

●委員

資料の見方はそれでよいが、永井委員のご質問は、基本目標2の個別指標 No.4のような項目を単年度で比較する理由は何かというご質問ではないか。その年度で10件助成したことを前年度比で見比べても進捗率とはならない。

●区

今回は、基準の分類がなくわかりづらい、また、数値の振れ幅が大きいというご指摘をいただいたので、「種類」という項目を新たにつくり、数字で理解しづらい部分については文章で補足する対応とした。

●委員

事務局として「累計」「単年度」の基準を採用した理由を尋ねている。

●委員

助成件数10件については「単年度」というより「基準」に該当するのではないか。前年度との因果関係で結果が変動していくものと単年度に達成するべきものとの違いについて、再度検討したほうがよいのではないか。

●委員

進捗率で評価するという案はよいが、進捗率に沿わない項目が混在している。「種類」の分類を選択するにあたり、どの程度検討したのか。

●区

議論を詰められていなかったため、再度検討したうえで提示したい。

●委員

最終目標年度の目標値と令和3年度実績値の差、令和4年度実績値と令和3年度実績値の差で進捗率を表しているが、なぜ差で進捗率を計算しているのか。また、p.7基本目標1の個別指標 No.4の③増減量がマイナスの数値になっているが、基本目標1の個別指標 No.1～3の③についても、同様にマイナス値ではないか。

- 区

No. 1～3の③増減量については修正する。計算方法については、p.2に記載のとおり、最終目標値に対する増減量を比較することで、進捗が把握できることとしている。

- 委員

実績値や目標値から基準値を引いたものが、なぜ進捗率になるのか。実績値を目標値で割れば進捗率は算出できるのではないか。

- 委員

ご指摘の箇所を検証する必要がある。

- 委員

基準値からの乖離度を設定しながら評価する方法もあるが、このように算出する必要がない指標があるかもしれない。

進捗率を採用することはこの場で合意いただく。個別の指標に対してどの類型を適用して計算するかについては事務局で検討いただき、委員会と共有する必要がある。

次回委員会：令和6年8月20日（火）14時～ 中央区立環境情報センター研修室

以上